

報告第5号

コミュニティバス新規車両の導入について

コミュニティバスの新規車両の導入について下記のとおり報告します。

記

コミュニティバスの5号車（大型ワゴン）、6号車（大型ワゴン）の老朽化にともない新規車両を2台導入します。新規車両導入後は、既存車両の1台をコミュニティバス専用の予備車とし、残りの1台を公用車兼用の予備車とします。

1. 新規導入車両

項目	規格・装備等
1 物品名	コミュニティバス
2 台数	2台
3 車種	トヨタ ハイエースコンピューターDX 型式：QDF-GDH223B-LETDY
4 駆動方式	2WD
5 総排気量	2800cc程度
6 トランスミッション	6速オートマチック
7 全長／全幅／全高	5,380mm程度／1,880mm程度／2,285mm程度
8 車両総重量	3,000kg程度
9 乗車定員	14人（運賃箱取付けにより座席数12人に減少予定）
10 使用燃料	軽油
11 燃料タンク容量	70リットル程度
12 排出ガス認定レベル等	平成21年規制 低排出ガス10%低減レベル適合車
14 車体デザイン	別添資料のとおり（塗装・ステッカー併用）
15 運賃箱	レシップ運賃箱 LF-A型 ※既存車よりの運賃箱載せ替え

2. 納入予定 令和元年9月30日

3. 必要な手続き：自家用有償運送の変更届出（市町村有償運送の車両数の変更）

別添資料(車体デザイン)

車体のベースデザインは、下図のとおりとし、車体は、オレンジ、前後のバンパーは、イエローで塗装。マスコット、文字、車体周囲のラインをラッピング(ステッカー)とする。

現在、市民アンケートでデザインが決定しラッピングした車両が4台運行しているが、導入後にラッピングの問題点が判明したため、運行事業者と協議の上、新規導入車両は塗装とラッピングを組み合わせ、イメージが変わらない範囲で一部変更したデザインとする。

ラッピングの問題点

- 1、耐用年数が3年と短い。
- 2、管理状況や使用状況によっては、耐用年数よりも早くフィルムがはがれてしまうため車両の日常管理に非常に気をつかう。
- 3、湾曲する箇所から剥がれが発生しやすい。
- 4、事故などで傷つけてしまった場合に、部分的な補修が難しい。また、補修費用が非常に高額になる。



(参考)ラッピングをした車両

